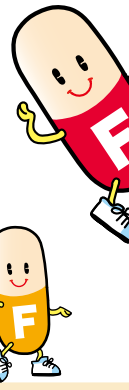


POWER!



2015年
9月
vol. **41**

平成27年(2015年)
9月20日発行

発行所 ● 日本薬剤師連盟
〒160-0004
東京都新宿区四谷4-3
四谷トーセイビル2階
TEL (03) 3225-3100
FAX (03) 3225-3200

発行月 ● 隔月(奇数月)発行

<http://www.yakuren.jp>

「全国薬剤師フォーラム2015」が開催された

「青年部が変えるこの一年」60万の仲間作り

平成27年8月8日(土)・9日(日)の2日間、全国から若手薬剤師93名が千葉県・クロスウエーブ船橋に集結し、薬剤師が積極的に連盟活動に参加する体制を構築することを目標にフォーラムを開



催した。

初日は高橋総務の司会進行の下、開

会挨拶で山本会長は「**自分達の代表を選ぶことは、自分達が良ければ良いのではなく、全国の薬剤師のために、自らの将来を選ぶこと。**我々の職能は何ができるか、どう変わるのか。直面していることは将来に向けて政治を動かすこと。政治が法律を作ること等を踏まえ、現場から国会へメッセージを送ることが、薬剤師の将来を決める。そのためのフォーラムであることを自覚し、2日間を過ごし全国へ知らせたい」と述べた。続いて、来賓として出席された松本純衆議院議員は挨拶で「今の制度で薬剤師が生きていけるのか、将来にわたり国民からの信頼を得て、社会的な地位を高めていく必要がある。**夢を叶えるためには政治が必要。**皆さんの思いが形になるように全国28万の薬剤師の力を結集してほしい。」と述べられた。引き続き、とかしきなおみ衆議院議員は挨拶で「薬剤師を取り巻く環境は厳しい、薬剤師は真面目に働いているが国民には伝わっていない。薬剤師が必要、いないと困る存在になりきれないことが問題。来年の選挙は薬剤師の心意気が問われている選挙。**国民に薬剤師がもっと役立つ存在になるためにも頑張りましょう。**」と述べられた。

その後、集合写真の撮影、大澤常任総務からのフォーラム開催の趣旨説明があった後、岩本幹事長から「公職選挙法と後援会活動」をテーマに、参議

院選挙に向けてやるべきことや注意事項等について基調講演が行われた。引き続き石井常任総務からは「薬剤師業務と政治」藤井議員の活動の軌跡」をテーマに薬剤師にとっての政治力の必要性と藤井もとゆき先生の知られざるエピソード等をユーモアたっぷりに話し、参加者へ藤井先生への親近感が増すような講演が行われた。

基調講演後は、参加者を、青年部がすでに動いているところ、動き始めたところ等で8班に分けてSGDを行った。内容は、青年部の組織ができているところの事例やできていないところの状況や原因などを共有し、①日本薬剤師連盟の意義と役割について、②政治力の必要性と、③18歳選挙権対策について等、7項目を基に討論を行った。



その後、夕食懇談会に入り、吉川企画実行委員の司会で、生出副会長の開会挨拶、千葉県薬剤師連盟・石野会長の乾杯で始まり、東京都薬連盟・高知県薬連盟より活動の紹介があった。また、鳥取県薬連盟の活動と薬人によるハナミズキの替え歌と踊りのパフォーマンスが披露され、和気藹々のうちに終了、引き続き溝渕企画実行委員の司会でナイトミーティングを開催、岩本幹事長の挨拶後、講演・SGDで感じたこと、自県でやって行くことなどを各都道府県参加者が1分スピーチを行って初日が終了した。

2日目は、安東副幹事長の開会挨拶後、手塚副幹事長から「全国女性薬剤師の集い2015を終えて」と題しての朝の講話があった。その後、尾島副会長が座長となり、自由民主党ふくだ峰之衆議院議員から「インターネットを活用した政治活動並びに選挙活動」をテーマに基調講演が行われた。講演内容は、ネットの活用であるがLINEやFacebook等を活用しながら、どの範囲まで許されるかなどについて分かりやすくユーモアたっぷりの講演で、これからの選挙対策に大いに役立つものであった。引き続き、藤井もとゆき参議院議員が公務出張先のインドから早朝に帰国、そのまま会場入りして「国政報告」の基調講演をされ、気合の入った講演に会場の士気が上がった。

講演後、「新しい時代の後援会活動、選挙活動」「青年部としての選挙活動の確立」等をテーマにSGDを行い、各グループの代表から発表があった。

最後に荻野副会長から2日間の総括並びに閉会の挨拶があり、根本(陽)総務の音頭でガンバルゾコールを行いフォーラムが終了した。

(内容・感想については2面参照)

風力計



日本薬剤師連盟
常任総務 小野 春夫

「思い出の居酒屋」

高校同期の悪ガキ5人で株式会社42(フォーティーツウ)を設立しました。厄払いの会社です。声の大きい私社長です。全員ブラックマンデーでやられた連中、どうせやられるなら地元のために、若者のために、おもしろい事をやろうと作った会社です。最初はJR小倉駅前のラフォーレ原宿小倉にコンドームショップをつくりました。知人の館長に「君は薬剤師だろう、エイズ撲滅に立ち上げろ!」(神戸事件発生)なんてその気にさせられて東京原宿駅前の「コンドームショップ」に見学に行き、三店舗開店しました。某新聞に「おじさん頑張るなんて写真入りで大々的に書かれ、後の電話対応が大変でした。しかし当初の目的と違つやうと云う事で、若者が楽しく集う場所、居酒屋にたどりつきました。酒メーカーの社員を引き抜き「やってみなはれ」で店舗を上げて行きました。最初の店は東京の繁盛店をそのままパクリ「北九州にもこんないい女が居たのか」と思う程美人が集まりました。美人が来れば男は寄って来る。飲食店の基本です。各店舗とも個性とテーマをもたせターゲットの確認、商品構成、それに伴う仕入れや在庫の確認、サービスの提供方法等あつという間の楽しい二二年でした。その間、年一回のブランドメニュー、三ヶ月に一回の部分メニュー、月一回の付き出しの見直し等、数軒の試食会(平均三回目でOK)、当然メタバになり最後の店舗を従業員に譲ってから二年経ち10kg落ちました。居酒屋経営は商売のエンターテイメントの王様と確信しております。

全国薬剤師
フォーラム2015

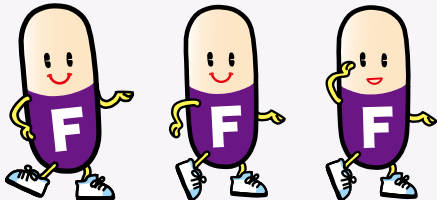
今後の活動に向けて

日本薬剤師連盟 青年部より抜粋

●北海道ブロック 東洋輝武

北海道はご存じの通り広大である。まずはフォーラムを支部単位で開催してみてもどうか。細分化することにより新たな参加者が増え意識改革の拡大に繋がる。また、選挙に行く！というところから始める必要もあるのではないかと。一人ひとりの票の積み重ねが確実な当選への近道だろう。

今回このフォーラムで得たものを地元を持ち帰り、私自身、微力ではあるが北海道薬剤師連盟を筆頭に札幌から精一杯頑張っていきたいと思う。



●東北ブロック 武田雄高

身近な生活の中に、政治によって改善された事例や不便を生じている事柄を多々見つけることができる。危険ドラッグ規制、学校薬剤師報酬の適正化、育児・教育問題など身近な条例レベルでの環境改善も政治家の力であることを知ってもらい、政治への関心をもってもらう契機を作りたい。

FacebookなどのSNSを活用したネット後援会活動、選挙活動に対応すべくルールを学び、若手ならではの発信力を活かす。「友達になる」だけでなく通常時からの更新・情報共有が大切であり、これを選挙活動の際に大きな力を生む原動力にすべき。こうして築かれたネットワークが地方選挙戦の際に大きな票獲得に繋がり、議員に対して薬剤師の存在をPRできた実例も紹介された。選挙前だけのネット活用では十分な意味をなさない。

●東京ブロック 今度有史

今まさに薬剤師にとって大変な時代が訪れるなかで、全国にはこれだけたくさんの熱い思いを持った人たちがいるのかとその熱を感じる事ができました。同時に地域によって抱える問題や世代によって違う政治への意識など、解決すべき課題も多く見つかったかと思えます。そんな中で、今回のテーマが60万人の仲間づくりとありましたが、そうした問題も今後はここで知り合った仲間と共に、SNS等を利用して連携を取りながら、最終的には裾野である個々の薬剤師、そしてその関係者にまで声が届くように活動を行っていかねばならないと感じました。この厳しい状況をピンチとは捉えず、逆に政治に対する意識を持ってもらえるチャンスとなるように各支部へのさらなる仲間づくりが必要かと思えます。

●北陸信越ブロック 水上弘樹

連盟活動の差を縮める為に、FacebookやLINE等のSNSで情報共有をして、足並みをそろえていく必要がある。また、活動出来ている県では、どのような活動をしているかを情報公開し、活動出来ない県が参考にしていく。そして、出来ない県では、まずは、支部や地域で小さいユニットから作っていき、ユニット毎で結びつきを強め、全国規模まで広げていく。その際には、政治力の必要性を理解してもらう為に、「明るい未来」や「厳しい現実」を伝え、政治にもっと興味を持ってもらう為に、若手フォーラムでは模擬選挙の実施も検討していく。

政治力=広報力と考え、SNSの有効活用と、動いた分だけ反映される若手のフットワークの軽さが重要だ。

●東海ブロック 池畑純一

グループ発表でも報告しているところと重なりますが、小さい単位でもいいのでFacebookなどのグループを作り、情報共有と情報発信をしていきます。一緒にの班になった仲間とすでにグループを作り、モチベーションと情報の共有を始めています。

参加した一人一人がブロックでリーダーになり、地域で積極的に活動している人に呼びかけて情報を共有し、選挙に対する意識の高くない人達への呼びかけ、掘り起しをしていきます。支部単位でフォーラムを開催することもしていきます。また掘り起こした人たちの周りの人にも協力を求めて、1票でも多く獲得する活動を早いスピードでしていきます。



●近畿ブロック 中本政容

会う回数が多ければ、その分、我々の意図や想いを伝えられる。また無理も聞いてもらえる仲になる。小さいが、そんな目標をもって、支援の輪を広げていくことを目標とする。

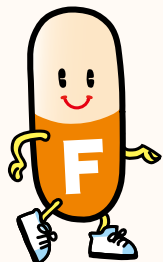
Facebookを中心に、今回のグループやブロックのメンバーとのつながりを作り、密に顔を合わせるようにする。具体的には、学術大会やブロックフォーラムなど様々な機会をメンバーに提供することで、多くの学びと気づきに出会ってもらい、未来の薬剤師像を語り合える仲間の創造を目指す。さらに、必ず日本薬剤師連盟の映像を見てもらうことで薬剤師と政治のあり方について、多くの仲間へ想いを伝えていく。

その事により、一人でも多くの方々に薬剤師職能の重要性と、それを継続するための国会議員の必要性を周知させていく。

●中国ブロック 山田島智治

今回の参加者の多くは、各地で若手の中心となっているような人物だった。僕より先に行く仲間を見つけた。いや、今までのフォーラムで出会った仲間の存在を思い出した。同じ課題に向けて、苦労を重ね、何とか行動する仲間がいる。苦手なこと、不得意なことは仲間を頼ってもいい。きっとヒントをくれる。それが再確認できた。

準備は万端だ。あとは行動に移そう。まずは来年1月の中国フォーラムを成功させる。そこでさらに仲間を増やそう。目と目で、手と手で、心と心で繋がる仲間を作ろう。そして、夏には今までで一番美味しいプレモルを飲もう。



●四国ブロック 岩下佳代

今後の活動として、必要なのは一言でいえば「つながり」である。

各県の活動には、ばらつきがあり、県においても支部においても、連携がうまくいっていない例が散見される。

各県においては、選挙時のみではなく、普段から各支部・研修会等で「政治と薬剤師のつながり」を伝えていく必要がある。また、薬剤師の認知度をあげることも重要で、地元議員や行政との「つながり」をもち、薬剤師の存在をアピールすべきである。

また、SNSを活用したネット選挙活動・政治活動も、若手薬剤師の参画において効果的であり、まずSNSについて知った上で、Facebook・LINEなどを活用すべきであることと、SNS上においても定期的な更新・情報共有など普段からの「つながり」が重要である。

●九州ブロック 小田真稔

薬剤師、正確には薬剤師会会員が政治への関心が薄いのはなぜだろうか。今回、改めて見つめ直したことである。日本は民主主義国家であり、どこかのような絶対君主制の国ではない。私たちは、幼少の頃からそのような政治原理の中で生活してきたはずである。例えば、生徒総会でお気に入りの生徒会長候補を応援し、多数決によって決めると言ったような。AKB総選挙も然り、数の論理そのものである。であるのに何故、多様な利害関係や価値観の対立を解決する仕組みである政治から目を背けているのであろうか。日本社会の仕組みのひとつとして、薬剤師という職能・薬局という機能があると捉え、平時より政治や経済に関わる必要がある。そして、政治は数であり数は力である。5年後10年後を見据えた行動をしたい。



1班



2班



3班



4班



5班



6班

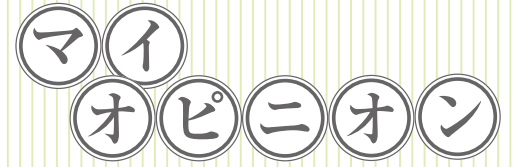


7班



8班

ここで 言わせて! 本音でtalk



政府は、厚生労働省は、日本薬剤師会は、私たち現場の話を聞いて決めたのか!?
聞かせて下さい!
あなたの意見・見解!

「患者さんから助けられ」

当薬局は本店が開局して50数年を経過した薬局の支店15年目の薬局です。15年間では患者さんからの感謝・指導・クレーム等多くの事があり、常に本店と相談しその処理に対応して参りました。その中で一番印象に残り、ありがたかった事を述べさせて戴きます。その日は多くの患者さんが来局され、順番に処方薬を投薬していた時、いつもの如く接遇に気を付けているつもりで、一人の患者さんに投薬したとき患者さんが「あなたの声は大きく、にやけた顔が気に入らない、ニコニコしないで投薬しないか」とのお叱りがあり、私にとっては失礼にならないつもりで接していましたが、この叱りにはどう対処してよいのか苦慮していた時、その患者さんの後方に座っていた患者さん(お年寄りの婦人)が困り果てた自分を見て一言「私がこの薬局にくる理由はこの薬剤師さんが何時もハキハキニコニコしているので癒されるし病気の半分はここで治っていると感で、感謝してこのお薬の言葉で叱っていた患者さんはそれ以上言葉もなく帰られました。その後助けて戴いた患者さんにお礼を言う」と私

「患者さんから感謝されたエピソード②」

は本当のことを言ったままで、いつもあなたたちに感謝をしているのよ、これからもよろしくね。」と言われ自分が投薬時に気を付けていることが患者さんに伝わり信頼されていると感じました。
(大分県 開局 S・Aさん)

「死ねる薬ありませんか?」

いつものように電話が鳴った。受話器を取り上げると、憔悴きった、か細い声で、突然「死ねる薬ありませんか?」と問われた。その言葉は、私の常識には無い問いでした。一瞬、空洞化した頭には、思い浮かぶ言葉がありません。「悩み事があるのね、今どうしているの?」「と言ったのがやっとでした。「二人なの?近くにお住まいなの?」と聞いても涙声で何を話しているか理解できない。「近くなら私の所に来ない?」「・・・行っても良いんですか?」「是非いらっしやい!」と話し、電話を切った。三十分もした頃だろうか?入り口のドアが開いた。「ボタン!!」若い女性が入り口で倒れた。口にはビニール袋をあてがっていた。職員一同、何があったんだと総立ちになった。掛け寄り、肩に腕をあてがい「怪我は無い?」と起し、

椅子に座らせた。顔は青白く、目はうつろで表情は無い。職員に仕事を任せ「事務所でお話ししましょう!」と二人きりになった。「そのビニールは?」「過換気症候群の発作が起こったら口にあてがうように医師から言われました。」「そう!少しは落ち着いてお話しできる?」事の経緯は、奥さんがいる彼の不倫の結果、彼は秋田に左遷。それを追いかけて秋田で同棲。しかし、身寄りや友人も無く、彼が出掛けてしまえば一人きり。行く末はどうなるかと不安は募るばかりだという。話を聞くうちに、私には助けられないと判断しました。そこで、思いついたのが京都東本願寺で3年間指導をしていた知人の住職。すぐさま電話をして面会を求めました。快諾を得て寺へ。約2時間、住職はうなずき、一切の意見や反論はせず、問いかけ、彼女に同意し、聞き出せるだけの話を引き出し、彼女が望む方向を探っていました。「お父さんに会いたい!」と小声で呟きました。すかさず「会おうよ!」とはっきりとした口調で住職は諭します。その場で、家に電話を掛けさせて帰ることを伝えさせました。父親は羽田空港まで迎えに行くと話したそうです。すくさま、彼女のアパートへ。十分ほどで大きなショルダーバック一つを抱えてきた彼女を乗せて秋田空港へ。お父さんに、甘えなさい!」と彼女を見送りました。
数日後、菓子折と礼状が届きました。『ありがとうございまして。』と書かれた文字に『娘と再会できる事はあり得ないこと』と

次号は、『患者さんから感謝されたエピソード③』及び『最近の話題』について本連盟ホームページ「POWER読者アンケート」から、どしどしご意見をお送りください。
(その他のことに対するご意見でも結構です)
<http://www.yakuren.jp/>

「かかりつけ薬局」の姿

大学を卒業して1年後、父の急死の為家業を継ぎ「街の薬屋さん」として営業して約40年、現在はほとんど調剤ばかりです。当時はOTC、化粧品、雑貨と白衣も身に着けず夜中に電話があり「お腹が痛いので浣腸を買いに行きます」「ミルクを売ってください!」今でいう24時間体制でした。
ドラッグストアが増え一時は経営困難になりました。近所にはクリニックもなく、病院もなく、さあどうしよう?お店の改装にふみきました。今までのお客様が改装した調剤室に関心を示してくれるようになり、処方箋を持ってきてくれるようになりました。まさしく面分業です。患者様はおばあちゃん、おじいちゃんが多かったのですが座って世間話をするのが楽しみのようでした。

在庫していない薬が処方されると近所の会営薬局に小分けを取りに行きます。患者様であるおばあちゃんやおじいちゃんにお店番を頼んで自転車で行くのです。一人薬剤師でしたので、時には自動ドアに「10分に戻ります」とメモを貼って取りに行きました。お店番をよく頼んでいたおばあちゃんが亡くなる前に病院に会いに行ったとき「ありがとう」と言ってくれました。

今でも目に焼きついています。心から当時のおばあちゃん、おじいちゃん達に大変感謝しております。
なんでも相談できて、愚痴をこぼしたり、悩みを聞いたり、美と健康と心のカウセリングまではいきませんが私も年を重ねてきましたから、人生のアドバイス的なお話もできるようになりました。今では年齢層も幅広くなり、重い病気を抱えている患者さんもいます。生まれたころから知っている患者さんもお話です。

彼女は抗がん剤を10年近く服用している二人の母親です。彼女のお母様は「娘が治らない病気になってしまった」と頭を下げて泣きながら「かわってあげたい」と言いました。私も息子がいますので母親の気持ちは痛いほどわかります。彼女も母親になって病氣と闘いな

〈都道府県薬剤師連盟主催〉若手フォーラム開催報告

「いいね」を押してね!
日本薬剤師連盟
本連盟の活動をいち早く写真と共に
お伝えいたします。Facebook
ページに「いいね」を押して、本連盟
の活動をチェックしよう!

から毎日を過ごしているのです。先日、処方薬の副作用の話をしたり、娘さんの話を聞いたりしていましたが、突然「私生きていたんです」と言いました。涙があふれていました。私も涙ぐんでしまいました。「彼女の母親がかわってあげたいと言っていたこと、副作用はつらいけど医師と相談しながら皆でがんばろう、病は気からだから気持ちには負けないで、つらいときは連絡してね」など他にも話しましたが良く覚えていません。でも帰るときは娘さんの自慢話をしていたので嬉しくなりました。「先生ありがとう、食事の支度をするね」と自転車で帰って行きました。
私にとっては「街の薬屋さん」が本来の姿だと思います。
患者様に「ありがとう」と言われた時、薬剤師として喜びを感じます。
(東京都 開局 M・Tさん)

全国藤井もとゆき薬剤師後援会役員会が開催される

～ 来年夏に向けて大いに盛り上がる ～

全国藤井もとゆき薬剤師後援会の本年度第1回役員会が、平成27年7月30日(木)午後1時30分より、東京・四谷の主婦会館プラザエフ会議室で開催された。薬剤師後援会の役員会は平成26年11月5日(水)以来2回目となる。

尾島副会長の司会により進行され、まず、山本会長より挨拶がなされた。山本会長は、連盟の会長就任時にお約束した47都道府県それぞれで藤井議員の活動を支援して行くこと述べ、神奈川県藤井もとゆき薬剤師後援会にも参加要請を行い、本日3名の役員に出席いただいていることを強調した。

次に、松本純衆議院議員及びとかしきなおみ衆議院議員より挨拶をいただいた。松本議員は、獲得票数が組織の力を示すことになり、すべての投票所で何票獲得出来たかが通信簿になることを末端



まで知らせてほしいと述べ、また、とかしき議員は、会員のいる薬局の前で会員の薬剤師の名前で呼びかけることが大事であると強調された。

つづいて、組織内統一候補である藤井基之文部科学副大臣から挨拶がなされた。藤井議員は、来年4月に医療費改定があるが、平成29年度には消費税引き上げによる改定が、また、平成30年には定期の改定が予定されており、薬価の連続改定の影響が心配される。前回は浪人中であったため全国をまわらずに集まることができたが、今回は、これまで以上に集まりの役員の方々の力を借りなければならぬ。10月以降は役職がなくなると思うので、可能な限り多くの集会などに参加したい。参議院から薬剤師議員が消えることのないよう頑張る所存であるのでご支援をよろしくお願ひしたいと締めくくり、岩本副会長の首領による「もっともっともっともっともっ」とコールを受けながら、会場を後にされた。

活動報告では、まず、石井副会長から直近の政治課題として、6月30日に閣議決定された「骨太の方針2015」、「日本再興戦略改訂2015」及び「規制改革実施計画」の薬剤師関連部分、また、日本薬剤師会の平成28年度予算及び税制改正に関する要望について説明された。次に、前回の役員会以後の後援会活動状況が説明された。

つづいて、日本病院薬剤師連盟の活動状況について土屋副会長から、日本女性薬剤師連盟の活動状況について近藤副会長から説明がなされた。



● 後援会活動が本格化

岩本副会長から今後の後援会活動のタイムテーブルを示しながら、後援会入会活動、全国訪問活動、薬剤師フォーラムの開催、組織強化のための全国担当者会議の開催、日薬連盟ブロック協議会の開催及び決起集会の開催、日薬学術大会におけるブースの設置、政党ポスターの作成と活用等について説明された。特に、20万超を実現するため60万名の後援会名簿を集めることとし、都道府県毎に示している目標数の達成に向けて努力願ひたいと訴えた。

次に、石井副会長から、推薦依頼候補団体一覧表が示され、自民党選挙対策本部の公認が8月初旬に得られるのを待って、推薦依頼文書を持参し正式に支援団

体となってもらうよう依頼することが説明された。また、既に推薦が得られている日本薬業政治連盟の推薦状の写しと同連盟の都道府県支部一覧が示され、都道府県においても支部と連携するよう要請され、都道府県に支部がある他の団体についても同様に支部の一覧を入手し、情報提供を行いたいと述べた。

更に、本年度の日薬連盟のブロック協議会の議題等が説明され、協議会後に決起集会の開催を予定していただきたいと要請した。

その後、質疑応答となり、活動助成金の交付に関する質問に対して、萩野副会長より、年末までに2回に分けて交付する予定であるとの答弁がなされた。

生出副会長の閉会挨拶の後、浜田常任幹事の首領による「頑張るぞ」コールで散会となった。

参加者全員がシンボルカラーである緑のベストを着用し、大いに盛り上がった役員会であった。

もとゆき Report 藤井もとゆき国会レポート

薬剤師・薬学博士
文部科学副大臣・参議院議員
藤井もとゆき



自民党の一次公認決定

夏休みも終わり9月に入りました。お盆休みで一旦小休止となっていた延長国会は平和安全法制等の審議が再開され、いよいよ会期末を睨みながらの緊迫した議論が続くこととなります。

さて、自民党は来年夏の参議院議員選挙に向けて、8月3日に第一次の党公認候補39名(比例代表12名、選挙区27名)を公表し、私も比例代表候補者の一人として指名を受けました。

選挙への戦いはスタートしたと言っても過言ではないと思いますが、文部科学副大臣の職務にある私は、8月4日、午前の参議院文教科学委員会に出席した後、日印科学技術協力協定締結30周年記念行事の第6回日印科学技術国際会議への招待を受け、夕刻の便でインドのデリーへ向かいました。インドでは日本政府代表として日印科学技術国際会議に出席して挨拶したほか、ハルシュ・ヴァルダン科学技術・地球担当大臣、スムリティ・イラニ人的資源開発大臣、並びに文化省、観光省担当のマヘシュ・シャルマ閣外大臣それぞれとの会談に臨み、両国の科学技術協力の発展に向けた今後の取り組みをはじめ、初等中等教育分野での協力や観光・文化を通じた交流などについて意見を交わしました。またニューデリー日本人学校の視察、デリー在住日本人留学生などとの懇談などを終えて、9日早朝に帰国しました。週末の15日には第62回全国高等学校定時制通信制軟式野球大会の開会式、始球式に臨み、19日には天候の関係で順延されていた「このとり5号」打上のため、鹿児島種子島へと向かいました。

こうした公務の合間を縫って、全国薬剤師フォーラム2015で講演させて頂きましたし、沖縄県薬剤師連盟の会合では国政報告も致しましたが、まだまだ自由に身動きできない状況にあります。来年は、薬剤師の力を見せつける大切な選挙になると思います。皆様方にはいま暫くご迷惑をお掛けしますが、薬剤師の先生方のご期待や激励にお応えできるよう、粉骨砕身努めて参ります。

編集後記

「桃李不言下自成蹊」
これは、私が9年前薬局を開業する時に、尊敬するある医師から頂いた言葉で、中国前漢時代の歴史家司馬遷の著述「史記」李將軍伝にある一文です。

「桃李は言われども自ずから蹊(こみち)を成す」と読み、現代語訳すると「桃や李は口をきいて人を招くことはしないが、良い花や実があるので人々が争って来て、結果として自然に小道ができる」となります。

これを転じ、人徳があれば自然に人は心服するという意味になります。徳のある人は自分から人集めの呼び込みをするわけでもなく、自らを厳しく律することで、その人柄に惹かれた人々がついて来て、そして結果としてたくさんの方が集まると、人のあり方についての思いが込められております。

私は文学的なことに全くと言っていい程興味がなく、当初深い意味があると考えられませんでした。節目の10年を前に、薬局および薬剤師の姿勢を再確認し、見直すようになり、この言葉をふと思いつきました。

個人的な人のあり方のみならず、薬局を含めた企業及び各種団体にも同じような思いはあるべきではないかと、今さらながら思うようになってきました。

たった漢字8文字ですが、私はこの言葉に込められた深い意味を一生追い続けようと思えました。

(H.N)

広報委員

- 生出泉太郎 安東 哲也
- 大澤 泰輔 鳥海 良寛
- 大原 整 榑方 絢子
- 近藤直緒美 根本 陽充